

日本性科学会 ニユース

第37巻第2号

平成30年(2018年)6月

発行人:大川 玲子 印刷所:(株)絢文社

第38回日本性科学会学術集会

期 日:平成30年9月23日(日)

会 場:中日パレス 名古屋市中区栄4-1-1 中日ビル5階

学 会 長:エスエル医療グループすぎやまレディースクリニック院長 杉山正子

学会テーマ:「次世代につなぐ性科学」

演題募集期間:平成30年7月10日(火)まで延長 詳細はHP参照 <http://www.cs-oto.com/jsss38gakujutsushukai/>

【プログラム】

- 8:50~9:00 開会式
9:00~9:45 一般演題Ⅰ
9:45~10:30 一般演題Ⅱ
10:30~12:00 シンポジウムⅠ「日常臨床で遭遇する『性』の問題」
座長:今井 伸(聖隷浜松病院泌尿器科) 早乙女智子(主婦会館クリニック)
演者:村瀬 紗姫(岐阜大学医学部産婦人科) 「婦人科悪性腫瘍の治療と妊孕性の温存」
今井 伸(聖隷浜松病院泌尿器科) 「男は狼だけじゃない~意外に多い射精できない男性~」
早川 徳香(南山大学人文学部/保健センター) 「発達障害と性」
山口 悟(ナグモクリニック名古屋) 「乳房再建と性(仮)」
古川 慎哉(愛媛大学大学院医学系研究科疫学・予防医学講座) 「性機能への関わり合いの重要性 糖尿病専門医の立場から」
大川 玲子(日本がんと性研究会) 「がん患者のセクシュアリティを支援する」
12:00~12:30 教育講演「産業衛生にみる『性』」
座長:夏目 紘(エスエル医療グループ夏目泌尿器科)
演者:山田 琢之(愛知医科大学客員教授・なごや労働衛生コンサルタント事務所長)
12:45~13:15 ランチョンセミナー「歴史をひもといて~遊廓に学ぶ『性』のマナー」
座長:今枝 朱美(日本結婚教育協会 愛知支部)
演者:村上侑美枝(國學院大學客員教授 儀礼文化学会専門委員 マナーコンサルタント)
13:30~15:15 シンポジウムⅡ「大学教育に『性科学』はどのように取り入れられているか」
Part1 会長講演 座長:大川 玲子(日本性科学会理事長)
演者:杉山 正子(エスエル医療グループ すぎやまレディースクリニック)
Part2 座長:菅沼 信彦(名古屋学芸大学看護学部) 茅島 江子(秀明大学看護学部)
演者:白井 雅人(順天堂大学医学部附属浦安病院泌尿器科) 「本邦の医学部における性医学教育の現状と今後について-泌尿器科全国調査結果より」
古谷 健一(防衛医科大学校産科婦人科学講座) 「産婦人科における教育の実態と今後の展望(仮)」
康 純(大阪医科大学総合医学講座神経精神医学教室) 「精神科における教育の実態と今後の展望」
鈴木 由美(国際医療福祉大学保健医療学部看護学科リプロダクティブヘルス看護学) 「母性看護学概論で学ぶ大学生版性教育と恋愛講座」
石丸徑一郎(お茶の水女子大学生生活科学部心理学科) 「心理系学部・専攻における教育の実態と今後の展望」
門間日菜乃(富山大学医学部看護学科第4学年) 「性を知り、生を豊かに 学生が考える性教育とは」
15:15~16:15 特別講演「健康・開発とジェンダー」
座長:堀口 貞夫(主婦会館クリニックからだごと心の診療室)
演者:青山 温子(名古屋大学大学院医学系研究科 国際医療保健学・公衆衛生学)
16:15~17:20 シンポジウムⅢ「性暴力加害者をなくすために~医療・教育・行政から見た支援~」
座長:丹羽 咲江(咲江レディースクリニック)
演者:中村 正(立命館大学大学院人間科学科) 「性暴力加害者をなくすために~教育から見た支援~(仮)」
岡部はるか(和歌山少年鑑別所首席専門官) 「刑務所・少年院・少年鑑別所での性暴力加害者への働き掛け」
針間 克己(はりまメンタルクリニック) 「性犯罪者処遇プログラムの実際」
17:20~17:30 閉会式

学会事務局:〒460-0004 名古屋市中区新栄町1-3 日丸名古屋ビル3階 すぎやまレディースクリニック

演題担当:〒451-0075 名古屋市中区康生通2-26 (株)オフィス・テイクワン

同時開催 平成30年9月22日(土)

10:00~12:00 GID学会エキスパートセミナー

13:00~17:00 第19回日本性科学連合性科学セミナー「今こそ活かそう 性科学の知識」

17:30~ 合同懇親会

Vol. 37

№.
2

日本性科学会

〒113-0033 東京都文京区本郷3-2-3 森島ビル4F

TEL・FAX 03-3868-3853

MRKH ロキタンスキー症候群女性の現状

お茶の水女子大学大学院発達臨床心理学コース博士前期課程

菰田 敦子

今回の研究会では、メイヤー・ロキタンスキー・キュスター・ハウザー症候群 (Mayer-Rokitansky-Kuster-Hauser Syndrome, MRKH 以下ロキタンスキーで統一) を取り上げた。ロキタンスキーは性分化疾患の一つで、先天性な膣の一部もしくは全欠損、及び、子宮欠損の疾患である。外陰部は正常、染色体は46XXと正常女性型であり、ミュラー管の分化異常によって起こると言われている。多くの場合、初潮が来ないことをきっかけに思春期で診断を受けることを特徴とするが、それ以外は通常と同じ二次性徴をもつ。性自認は通常女性である。歴史的には紀元前460年以降、ヒポクラテスらの著名な科学者が同種の疾患に言及しているが、処女膜閉鎖等と混同されていたようである。2009年にイギリスで行われた研究では、ロキタンスキーの女性・臨床群66人と、健常群31人を対象にして心的ストレスの程度が検討された。その結果、ロキタンスキーの女性には顕著で持続的な心的苦痛と自尊心の低下、また精神疾患の発生のしやすさがみられ、臨床心理学的介入が必要であると示唆された (Heller-Boersma & Schmidt et al., 2009)。

ロキタンスキー症候群女性の主観を知ることにより、望ましい臨床心理学的支援のあり方を探るため、27歳のロキタンスキー女性にインタビューを行った (東海地方A県在住、現在未婚)。インフォーマントは、疾患に対する正確な知識をもつ医療従事者に加え、自分の気持ちや状況を理解してくれる人の存在を必要としていた。時折感情が表れる語り口から不安や怒りなどが伝わってきた。また27歳となり、自己の子どもをもつという希望が満たされないことに対する悲しさや、適齢期への焦りのようなものも感じられた。さらに、以前熱心に関わっていた新興宗教の話、これまでの交際相手への依存傾向などから、孤独感などの気持ちをどこかで埋め合わせたいという心情が理解できた。このインタビューからロキタンスキー症候群における診断時からの継続的な医療・心理的支援があれば、怒りや不安、孤独をもたらず現状を改善しうるのではないかと考察された。

研究会では、ロキタンスキーの女性たちの現状をさらに具体的に伝えるため、ロキタンスキーの女性がSNSを介して2014年に発足した会も紹介した。「ロキタンスキーの会」には、10代から50代のメンバー70名及び、その家族11名、支援者 (2018年5月時点) が主にSNS上で悩みの相談や、情報交換などを行っている。会のホームページ (<http://drea-mscometruesak.wixsite.com/rokitansky>) には、診断を受けた高校時に将来を想像できなくなったこと、行った病院の医師がロキタンスキーを知らず困ったこと、生きる価値があるのかと心を悩ませたこと、婚約が破棄となり落ち込んでいること、かかりつけの産婦人科医院に行くたびに「生理はいつでしたか?」と聞かれたり書かされたりするのが苦痛で仕方がないこと、子宮の文字を見ただけで身体が震えて手に汗が出てくることなどが記されている。会の運営に携わってきた私の視点では、ロキタンスキーの女性たちとその家族は、診断時にどのような言葉をかけられバックアップを受けるかで、その後の人生に大きく影響を受けている点や、年齢・状況によってその悩みが大きく異なってくる点などが特徴といえる。また診断を直接本人に伝えない医師もいて、娘にどう伝えたらいいのか、という家族の心理的負担は非常に大きいことなどを感じている。

日本では近年、子宮移植などの生殖医療のニュースが報道されると、その対象者としてロキタンスキーの名前が取り上げられているものの、臨床心理学的観点からは未だ彼女たちの実態について把握できていない。今後の心理的支援の実現を目指して、さらに研究を続けていきたいと考えている。

GID (性同一性障害) 学会 第20回研究大会・総会報告

はりまメンタルクリニック

針 間 克 己

GID (性同一性障害) 学会 第20回研究大会を2018年3月24日と25日、御茶ノ水にて開催しましたので報告します。このたびは第20回という節目に当たる大会でした。私は第1回目から毎回参加の数少ない(3名?)の皆勤賞でしたが、これまでは若手気分での参加でした。そんな私が節目の大会に学会長となり、歳月の流れを感じさせるものでした。節目にあたり、過ぎ去りし歳月を振り返るだけでなく、未来に向けても意義のある学会にしたいと考えました。

そこで、学会のテーマを「性別を越える 性別を超える 二元論からの飛翔」にしました。「性別を越える」は、男性、女性の性別の境界を越える、を意味します。また、従来の性別概念の枠組みを超えるという視点が「性別を超える」ということです。「二元論からの飛翔」の「二元論」は、男女二元論に限定したのではなく、「身体」と「心」、「正常」か「異常」か、といったものも意味します。このような二元論がある中、対立的に二つの概念に分けてとらえるのではなく、より高い視点から統合的に深く広くとらえるため、大空に飛翔しよう、といったテーマでした。

1日目は、午前中に専門家向けに、「手術手技研究会」「エキスパート研修会」があったのですが、早くも100名近くの方が出席され、活発な議論がなされました。12時半に開始予定でしたが、受付に数十メートルの長蛇の列ができ、15分待っての開催となりました。私の会長講演で開始です。特例法制定等を中心に、回顧的内容がメインでしたが、笑いも取れて一安心でした。次は、三橋順子先生のGID学会の20年を振り返る講演でした。豊富な資料と写真で、我々の歩みを再認識しました。次は、保険適用の特別報告でした。参議院議員の谷合正明先生、GID学会理事長の中塚幹也先生にお話しを頂き、厚労省の担当者からもコメントを頂きました。この4月から、性同一性障害の手術は保険適用されるようになったのですが、ホルモン療法は自由診療のため、ホルモン療法をしている場合は混合診療にあたり、手術は保険適用できない旨でした。ホルモンの保険適用実現という課題を残しました。次はICD-11についてのシンポでした。ICD-11では「性同一性障害」は「Gender Incongruence」(性別不合)と名前が変更され、精神疾患ではなく、「Conditions related to sexual health (性の健康に関する状態)」というグループになるのです。次の特例法のシンポでは、法律家の谷口洋幸先生や本田広高先生から、国際人権法上、特例法に手術要件があることの問題性が指摘されました。1日目の終了後は、懇親会も盛り上がりました。また同時間に別会場では「GID全国交流会」も開かれ、こちらも盛り上がったようです。

2日目は、まずXジェンダーのシンポがありました。「Xジェンダー」とは「自分は男女どちらでもない」といった新たなタイプの性自認のあり方です。次は心理的支援のシンポでした。性別違和のありようが多様化する現在、今後の心理的支援のあり方が検討されました。午後は、難波聡先生にオリンピックにおける選手の性別決定のあり方を御講演いただきました。現在は、手術ではなく、テストステロン血中濃度が主たる決定要因となっているようです。次に菅沼信彦先生に子宮移植について御講演いただきました。生殖技術の進歩とともに生殖倫理についてもさらなる検討が必要になると感じました。また第二会場では、「性別違和のある子どもたちの居場所づくり」のシンポも開かれました。子供についての参加者の関心は高く、会場から人があふれ出るほどの熱気に包まれていました。最後は、若く社会で活躍しているトランスジェンダーの方々に、活動や抱負を語っていただきました。未来への希望を感じました。また一般演題35題、ポスター4題も充実した内容でした。

2日間にわたり、641名と多くの方に参加していただき、素晴らしい発表と活発な議論に恵まれ、無事学会が終了しました。皆様にあらためて感謝したいと思います。

資格認定委員会より

日本性科学会副理事長（認定制度担当） 阿部 輝夫

日本性科学会「セックス・カウンセラー」「セックス・セラピスト」資格認定規定、並びに更新規定（日本性科学会雑誌vol. 1に掲載）に基づき、2018年度の新規資格認定並びに更新資格認定を行います。

尚、資格認定申請期間は、新規・更新ともに8月1日～8月31日です。新規資格認定希望者は、申請書類を日本性科学会事務局までご請求ください。資格更新該当者には、事務局より7月中に更新申請書類を郵送いたします。

いずれの場合も資格認定規定を御熟読の上、ご申請ください。御不明な点は学会事務局にお問い合わせください（TEL 03-3868-3853 受付時間 月・水・金 10:00～13:00）。

第15回アジア・オセアニア性科学学会のお知らせ (15th Congress of Asia Oceania Federation for Sexology)

<http://aofs2018.org>

会期：2018. 8. 17～19

会場：チェンナイ / インド Hotel Hyatt Regency, Chennai

主催：Council of Sex Education and Parenthood International (CSEPI)

会長：Dr. D. Narayana Reddy

学会テーマ：Sexual Health – for quality Life

参加登録・発表抄録 on line

(締切は過ぎました。on line submission はできそうですが、お急ぎください。)

登録費	7月31日まで	8月1日以後
メンバー	550USD	650USD
同伴者 / 学生	250USD	375USD

※登録や学会ツアーについては JFS/ 日本性科学連合 (info@jfs1996.jp) にお問い合わせください。

書籍紹介

セックス・セラピー入門 性機能不全のカウンセリングから治療まで

待望の『セックス・セラピー入門』が、出版されました。日本性科学会の会員の先生方に分担執筆していただき、多様な専門の立場から、セックス・セラピーを論じた一冊です。実践的で有用な内容ですので、会員のみならず読んでいただくと同時に、多くの方に紹介もしていただけたらと思います。

